

憧れの異装したら似合ひと過ち

「十五を「ちく似合ひ」と比較すると同意がよく判る。知り合ひで警官に「おじさん」と声を掛けられた女性の話を思い出した。
「酔いこの懐かしい不快感
「酔いこの呼列に残る酒臭をばっ」が青春時代の蹉跎を思い起すせていくね。」

梅雨入り宣言出た次の日はよく晴れる

そういうもので、梅雨明け宣言が出たあと雨が続くことがある。今では、梅雨明け宣言は出されなくなった。

五十路坂擬似恋愛をこころの僕

「五十路坂」という表現には「意見もあることが、擬似恋愛」というところが面白い。片思いなのか、倦怠期を乗り越えようとするテクニクなのか・・・

ネオン街人もつばめも引き寄せ

大昔に比べると、環境が良くなったのか、ツバメが環境に適合したのか、商業地域でもツバメの巣を見かけることがある。カラスの駆除などでも関連しているのかも知れない。

海の日は毛蟹の足が刺してしる

毛蟹の毛を刺るのは何故。海の日の比喩は、何かがあると思わせる作品。

聴診器心の傷も聞けてくれ

大きな病院では、患者のほつを向かないで、カルテを見ながら問診する医者に出くわすことがあるが、町の小さな診療所では、こういった先生がまだ活躍されている。

嫌われる理由をコキブリに問わ

「コキブリは、徳年前からほとんど今の形だそうだ。コキブリほどくびくのないのに、コキブリ亭主などと呼ばれている人を、コキブリは不思議がっているだろう。」

十文字を染むる織女星

織女星と牽牛星の伝説は中国の神話伝説、雨が降ると天の川の水位が上がって二人が出会えなくなる。「七夕」「牛」「織女星」とれが別の表現にすることで、広がりが出ると思ふ。

子等がみな母親色に濃く染まる

「子はみんな」「良く染まり」「など、別の表現と比較してみたい。推敲の段階で、何を削り、何を広げるか、ということの参考にしたし。

青空を呑むか燕の曲返し

初夏の風景。湿度が高くなるとツバメは低空を飛び、

協会へ座布団が舞つ機投

不祥事に混乱している相撲協会の状況の比喩。

オウソートルは男子が決める

何故「男子」なのか。オウソートルを「墓穴を掘る」と描いてみると、社会的地位がある人物がそのような状況になり、報道される場合、男性男性性であることが、思ひ浮かぶが・・・

温暖化そのうち夏場に雪が降る

気候変動を極端に描いているのか、現在科学的に言われている温暖化が、その仕組みとおりに進むと、実は寒冷化が始まってしまふ、というパラドックスを描いているのだから、

ゆっくゆっく血の数式に解かれゆく

「血の数式」を「血縁」と捉えてみる。

根っからの宇宙の少女「サット」マン

山崎真子氏の「さつだん」。「サット」は「フォーマー」のサットだ、という

本質を除けたと「さつ」輪が出来

物事の本質に立ち向かうには覚悟がいる。言葉では簡単だが、覚悟と「さつ」ものは難しいもので、さつでない「さつ」輪が出来ると、さつ見つけは面白い。

二十四時稽古せよ寝て食べるだけ

時事として、混沌の続く相撲協会を土台に、自ら、もしくは誰かを比較しているのだから、

風穴をあけに出かける趣味の会

風穴を開けるのは自分、作品の読みを考えると、主人公が誰なのか、という点を理解する参考にした。

小遣いを呉れない鼻を掃除する

脛がじりり、前総理にかけた世相風刺だろうか？

好奇心先導育児祖父出番

祖父が孫とキヤッチボールをするのが思い浮かんだ。親友の仲健康が遠慮ける

年齢を重ねてゆくと、仕事より健康状態がプライベートな予定を左右するようになる。十五を別の表現と比較してみたい。

筋書者の無いドラマにもある布石

振り返ると、人生の起きるどんな事柄にも、フローチャートというか、アルゴリズムというか、時々選択や、外的要因がある。

カルチャーに吹くホジティブな風が好き

「前向きな風」という表現と比較し、カナ表現の効果について検証してみたい。

愚痴っても時計の針は戻らない

十五が色々変えられるなという印象。「時計の針は戻らない」ということは当たり前のことで、その事柄をどう広げるのか、その方法について検証してみたい。

天国の友と酒くむ雨の午後

修辭として「何々の何々」の重なりは効用、またそれについての批評等を聞いてみたい。

後の指差したと「さつ」薬指

後の指はやはり人差し指で差すのだから、では薬指は何を指すのだろう。そんな想像が面白い。

さりげなく健康をきく二目惚れ

行動と十五の距離感が面白い。詠み手、そして相手の年代、世代、そういったものが次々と連想でき、広がってゆく。

先生がサラリーマン化し釘をさす

何に對して釘を刺すのか。先生のサラリーマン化という主題が主張したい事柄なのか。その辺りがすこし消化不良だ。

サッチモを聞き寝る眠る寝る眠る

読み手が、サッチモ(ルイ・アームストロング)の楽曲を、どんな時代に、どんな場所で、どんな思いで聞いたか、によって世界が変わってくる。後半部分の意味合いもそれによって変化する。多くの意見を聞いてみたい。

恋を知りてールを剥がすひとりっ子

ひとりっ子を主人公として読むか、母親を主人公として読むかだが、作品に書かれていない母親を主人公として読むことで、広がりがでてくる。